

令和元年度 東谷地区町政懇談会

開催日時 令和元年5月22日(水)午後7時～午後8時20分

開催場所 谷口公民館

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、青木総務課長
野田農林課長、松野水道課長、青木教育課長、池田建設課長
石黒土木施設維持係長

地元議員 伊東議員

東谷地区自治振興会 高見会長

企画政策課 林課長、米谷課長補佐、山田課長補佐、高江主任、森主任
細木主事、城川主事

参加者数 34名(うち町職員3名)

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

(1) 町からのお知らせ

- ①上段東谷丘陵立木伐採事業(農林課長から説明)
- ②町文化情報発信ステーションの工事概要(教育課長から説明)
- ③農業集落排水事業使用料改定及び浄化槽設置管理事業(水道課長から説明)

【質問】

- 上段東谷丘陵立木伐採事業の対象地近くの牛舎西側は、がけ崩れが発生し、現在工事中である。年配の方の話では、この場所は水が出やすいところであり、進め方によっては崩れやすくなるという話を聞いたが、どのように考えているか。

(農林課長)

全ての木を切ることは考えておらず、雑木をきれいにしたいという思いでいる。作業に入る際には、現地で相談しながら、どの木を残してどの木を切るか決めていきたいと考えている。

- この地域は、がけ崩れを起こしやすい地域であり、地震があった際には震度7が想定される場所である。東谷の中でも、このような災害が一番発生しやすい地域が、幅割の下の部分である。このことをどのように考えているのか。

木を切るか切らないかは地権者が判断をすることだが、伐採したのために、がけ崩れが発生する可能性がある。また、美観、観光振興という点から、どれを残してどれを切るか、何を見せて何を見えないようにするのかといった問題もある。雑木という言葉が出ているが、少なくとも70種類以上の木があり、どれが雑木か判断が難しい。大雑把な話も必要で

あるが、まずは「町ではこの地域の完成形をこのように考えているので、このように事業を進めたい」という話がないと、地権者は素人であるため、伐採をしてしまってからでは取り返しがつかない。そのようなことがないようにしてもらいたい。

(農林課長)

地震が発生すれば、地盤が緩い場所はがけ崩れが発生しやすい。揺れやすさなどが標記されているハザードマップを参考に進めさせていただきたい。本来であれば地権者の方々に管理をしていただければ良いのだが、地権者がわからない状況である。少しでも景観を良くしたいという思いもあるが、イノシシやサルに住み処となっている可能性があり、鳥獣被害対策も伐採の目的の1つである。東谷は平坦地観光を重点としており、立山自然ふれあい館、岩室の滝、大観峰など、休日になると多くの観光客が来られる。立山自然ふれあい館から西側の山を見ると、段丘の法面の木が目につくので、伐採することにより、山がきれいにみえるようにしたいと考えている。

(町長)

「ハバ」という言葉がでてくるが、今後は「幅割(ハバワリ)」に統一して案内していく。地籍調査も実施するがこちらは国土交通省の事業となり、窓口は建設課になる。少なくとも侵入竹林は地盤自体をダメにしてしまうので、そこは伐採したいという思いがある。日中地区からも要望を受けており、地権者、関係者等と相談しながら丁寧にやっていきたいと考えている。

- 農業集落排水事業使用料改定といいながら、実際は値上がりである。説明する際は、料金の改定の説明ではなく、なぜ値上げをすることになるのかを説明し、そのためにいくら値上げをするという説明をするべきではないか。

(水道課長)

公共下水道料金の改定に伴う、農業集落排水事業の料金の値上がりになる。

町の平地部の下水道事業は、中新川広域行政事務組合が主体となって進めているが、下水道使用料で賄うべき施設等の維持管理費、下水道整備した当時の公債費を一般会計から多額に負担をしている状況を踏まえ、受益者負担、独立採算制の原則に照らし、下水道使用料を引き上げたものである。

町が事業主体の農業集落排水事業についても、同様に、施設維持管理費年間約4千万に対し、使用料収入が年間約2,900万円であり、維持管理費だけで町一般会計から年間約1,000万円以上を補填する厳しい状況にあり、同時期に同額を改定することとしている。

(2) 意見交換

(地区全体質問①～③)

① 農業政策について

当地区では、国の事業として直接支払制度による農地の保全管理を行っている。

今後の事業の継続、又町政の中山間地への農業、農家への取組についてお聞きしたい。

また、農道舗装、農業用水の改修補修、田んぼ法面の整備等の補助事業があればご説明もお願いしたい。

(農林課長)

中山間地域等直接支払制度は、令和2年度から5年間の第5期目の対策が実施される予定であり、今年度も、次期対策に円滑に移行できるように、支援加算措置の充実と予算確保を国・県へ要望を行う予定である。併せて、来年度予算の確保については、全国中山間地域振興対策協議会を通じて、強く要望する予定である。

多面的機能支払交付金事業があり、町内には約80の組織がある。そのうち資源向上支払という共同作業では、水路・農道の軽微な補修を行うことができるが、自主施行のみとなっている。資源向上支払交付金では、施設の長寿命化という項目があり、5年計画で、工事1件あたり200万円未満までの農道舗装やコンクリート水路の更新を行うことができる。

ただし、要望が多いことや国予算の関係もあり、要望しても採択されるとは限らないため、事業の執行を急がれる場合は、事案に適した他の補助金等の活用も検討いただければと考えている。

農業用施設に係る改修及び補修、法面整備等の補助事業については、メニューがたくさんあるが、事業の概要や採択要件、農地の集積率・集約化率など条件はさまざまである。地域での事業内容等の概要が決定次第、農林課農地林務係まで問い合わせしてほしい。なお、補助事業実施の際には、地元負担金が発生するので、ご了承願いたい。

② 鳥獣被害対策について

東谷地区では、年々、イノシシ、サル、カモシカによる農作物の被害が増加している。昨年、四谷尾 目桑地区において金網柵設置。イノシシ金網柵のお陰でそれなりの効果が出ている。

各集落の諸問題もあると思うが、町政が中心となって、東谷地区の他の地区もイノシシ柵設置できないか。町としても引き続き鳥獣対策に取り組んで頂きたい。

(農林課長)

平成29年度から、国の交付金を活用し、四谷尾、芦見、目桑地区に恒久型侵入防止柵を設置したところ、柵の設置箇所では、イノシシによる農作物被害は出ていないと伺っており、被害の防止効果が出ていると見受けられる。

町では、従来の電気柵に比べて、毎年の電気柵の設置及び撤去、草刈等の手間が簡略化されることから、恒久型侵入防止柵の設置を推奨していきたいと考えている。ただし、恒久型侵入防止柵の設置については、部材費(資材)のみの補助となっており、設置に係る労務費は、地元負担となる。この地元負担部分につきましては、地区で積立をしていただくなど、計画的に行っていただきたい。

なお、有害鳥獣被害の深刻化を踏まえ、地域の取組みの推進を図るため、国・県に「鳥獣被害防止総合対策交付金」の予算確保と、被害防止対策の充実・強化を引続き要望していく。

③ 東谷地区の活性化について

当地区も高齢化が進み、戸数、人口減少が大きな問題である。

地域活性化のため、町政が中心になって、白岩地区での酒造会社の誘致、旧谷口小学校への企業の入居、上東東谷地区のはわの雑木の伐採等地域振興に努めてもらっていますが、進捗状況についてご説明いただきたい。

また、町政としての、今後の中山間地域の東谷地区の活性化、取組みについてのビジョンを、お聞かせいただきたい。

(企画政策課長)

町では毎年 250 名ほど人口が減少しており、色々な施策に取り組んでいる。白岩地区での酒造会社の誘致により、民間では酒造施設の建設、町では貯蔵庫や商談スペースを備えた施設を建設することとしており、現在、施設建設予定地の造成工事や町道整備を行っている。旧谷口小学校への企業の入居や、幅割の雑木の伐採等については、先ほどご説明したとおりである。

今後、町では上東地域の活性化に向けた事業に取り組む予定であり、今年度は中長期的な地域計画を策定することとしており、6月議会において関係予算を計上する予定である。

計画策定の際には、地元の若い年代の方を中心としたワークショップを開催し、観光客向けの周遊コースや雇用の創出、農業者の所得の向上等、地域の活性化につながる様々なご意見をいただきたいと考えている。頂戴したご意見を上東地域内に点在する観光施設とうまく連動させ、更には民間企業とも連携した魅力ある活性化策を盛り込んだ計画とする予定である。是非地区から、20歳から44歳までの方で、ワークショップに参加いただける方をご推薦いただくよう、この場を借りてお願いしたい。

来年度以降は、地域住民の皆様、民間企業、町が連携し、計画を基にした施策を順次展開していきたいと考えている。

- 目桑から谷へ行く町道の間地点の辺りで、亀裂が入り、舗装が下がりぎみの場所がある。これから梅雨になり、ここは大型除雪車も入るため、いつか抜けるのではないかと心配である。今年に入ってなったものでもなく、以前からその傾向があった気がするが、最近になり更に下がったのではないかと思うため、確認していただきたい。

(建設課長)

現場を確認し、対応できるかどうか検討する。

- 白岩川の四谷尾の橋の下の補修工事については、西田組が受注されたが、工事は秋にならないと着工できないと聞いている。万が一大雨が降った時、町では具体的にどのように対応されるおつもりか。

(建設課長)

県土木管理事務所に確認したところ、大型土嚢で応急復旧していたところを西田組が受注して、現在はブロックの製作と漁協関係との調整に時間を要しており、工事が秋頃になるということである。

大雨が降った時の具体的な対応については、建設課の職員は、大雨警報が発令された時には待機し、必要に応じて河川及び道路をパトロールする。白岩川の県管理の部分につい

ては、県土木管理事務所の職員が待機し、パトロールを行う。皆さまから町に連絡が入り、その管理が県のものであれば、県に連絡をするといったパイプ役を行う。

異状を発見した際には、町の方に一報入れていただくようお願いしたい。

- 長倉から旧城前集落に向かう林道（城前線）に、通行止めのバリケードが設置されているが、南部漁業組合が漁業権を発生させており、通らざるを得ない状況にある。実際、脇は通れる状態となっている。通行止めは、せざるを得ない状況であるのか。いつか改修等により撤去される予定はあるのか。脇が通れるようになってから、4、5年経過していると思うが、整備がなされておらず、陥没状態が徐々に悪化している状態である。何らかの形で改修するなり、バリケードを外すなりしていただきたい。

城前集落の城前牧場へ行くカーブの場所に大きな穴が2つ空いている。この場所も4、5年放置された状況である。

(農林課長)

陥没している部分は、復旧する形で対応したいと考えている。

毎年、維持管理作業を業者をお願いしており、看板が上げられていて、そのままの状態になっている可能性があるため、確認する。

- 幅割の立木伐採の件について、伐採することにより、ものすごい西日が当たる場所も出てくる。全てを伐採するのではなく残すことも考えなければならない。いいことばかりではない。

(農林課長)

検討しながら対応させていただきたい。

- 和田川の上流の豚小屋の近くは、大型車が通行するので、交差点の路肩が崩れている。何年か前に役場職員に説明したが、そのままになっている。所々にこのような場所があるので、見ていただき、判断してもらいたい。

(建設課長)

道路の法面にひびが入ることは一番危険であるため、情報提供していただきたい。

(町長)

上東地区では民間を含め、様々な事業が動き始めている。酒蔵や、前田薬品工業が主体となっているヘルジアンウッドも竣工する。谷口小学校の外壁も整備し、それに併せて民間企業の誘致も考えている。新瀬戸小学校が廃校になり、谷口小学校のようにIT関係の企業が来てほしいという地元の意見もある。

今後テレビ、インターネット等でこの辺りのことが取りげられて、これを契機に東京に行った20代から40代の方たちが故郷に帰ってこようかと、若しくは富山に戻るなら立山町に住んでみようかと思っただきたい。そこで、東谷地区の方に限らず、県内で頑張っている40歳以下の方たち何人か推薦していただき、その人たちを交えて10年後、20年後こんな町にしたい、こんな集落にすれば若い世代や自分の同級生を呼び戻せるといったアイデアを出していただきたい。大学の先生で地方創生に詳しい先生がいらっしゃるので、

その方とコンサルタント会社を交えて月に1回ほど議論していただき、来年の1月ぐらいまでに思いを絵にし、発表してもらい、可能であれば順次事業化していくイメージでいる。そのためにも7月中に人材の推薦をいただきたい。

3 閉会

高見自治振興会長挨拶

伊東議員挨拶

終了